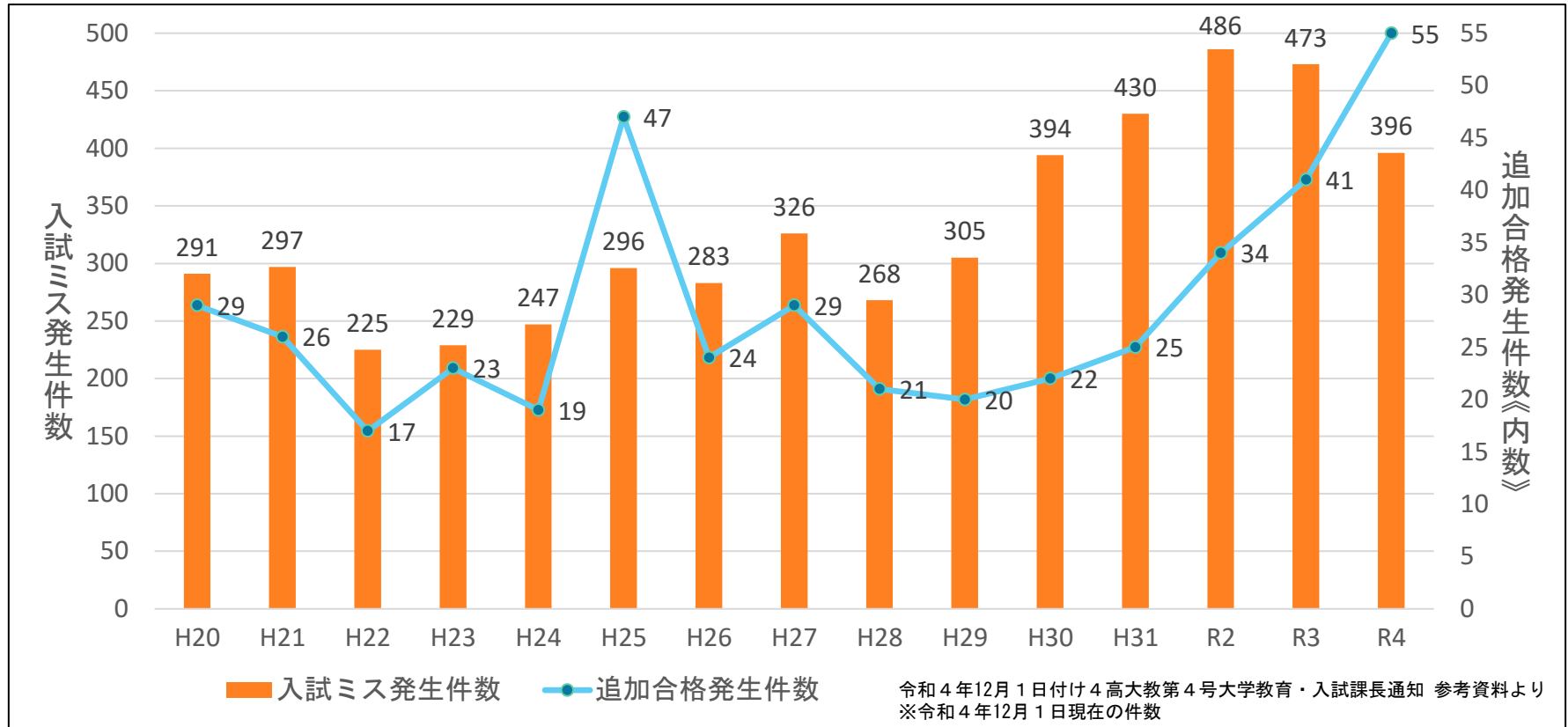


大学入学者選抜におけるミスについて

毎年12月上旬に「大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について」を通知。

【概要】

- ① 出題・合否判定ミス等がないよう留意して実施すること
- ② ミスが生じた場合は、受験生等への情報提供を含め必要な対応や文部科学省大学入試室に対する第一報を行うとともに、速やかに報告書を提出すること
- ③ 近年の事例を参考に、作題や試験実施の参考とすること



ミスの件数は**高止まり**、追加合格発生件数は**増加傾向**。

⇒ 各大学において、入試ミスの防止や早期発見に向けた対応を行う必要がある。

大学入学者選抜におけるミスの事例

<試験実施に関するミス>

- 募集要項に記載した内容とは違う方法で入試を実施した
- 誤って別日程の問題を配付してしまった
- 試験時間中に問題の訂正が発覚したが、周知内容と時間延長について、試験室によって異なる対応をしてしまった。
- 試験中に監督者のウェアラブル端末が鳴動した。

<採点・合否判定に関するミス>

- 誤った正解表や別日程の正解表を用いて採点をしてしまい、正しい採点が行えていなかった
- マニュアル上は複数人で複数回チェックすることになっていたが、実際はマニュアルどおりに行われておらず、採点ミスを発見できなかった
- 合否判定に用いているシステムの改修をしたが、改修後のチェックが十分に行われておらず、募集要項に記載の配点と異なる配点により合否判定を行った

<問題出題に関するミス>

- 問題文中に誤記が存在し、結果として正答が複数導ける状態になってしまった
- 問題の前提条件の設定が不十分で正答が導けなかった
- 出典を明記しているにも関わらず、出典元のデータとは異なる情報で出題してしまった

※出題ミスは入試ミス報告の中でも最多

<その他のミス>

- Web出願システムの設定を誤り、出願期間内でありながら、出願が締め切られていた
- 合否通知を誤った住所に発送した
- 本来不合格となる者に対して合格通知を送付してしまった
- 試験問題を学内クラウドサーバー上に保存していたが、セキュリティがかかっておらず、試験前に閲覧が可能な状態となっていた

大学入学者選抜の実施に係るミスの防止について

<実施体制の構築>

- 学長のリーダーシップの下、入試担当の理事、副学長等が入試業務全体を統括し、各学部等の入試担当と密接に連携するなど、**入学者選抜業務全般に係るガバナンス体制を構築**
- 入学者選抜のプロセス全体を把握した上で、マニュアルの作成等により、**業務全体のチェック体制を確立**
- チェック体制を**不断に点検**し、入学者選抜に関わる全ての者にそれぞれの**業務内容を周知徹底**

<試験問題の点検>

- 試験実施前だけではなく、**試験実施中及び実施後においても作題者以外の者を含めて二重、三重に点検**
- 学習指導要領、設定した出題範囲との関係について確認
- 問題の文面だけでなく、**内容や条件設定についても確認**（受験者の立場に立ち、**解答が導き出せるかなど**について点検）

<試験の実施>

- 教職員が一体となり、緊急時の対応も含めた**迅速性のある全学的な連絡体制を確立**し、円滑な試験実施に努める

<採点・合否判定>

- **解答や電算処理のチェック体制を確立**し、点検・確認
- 電算処理については、**予定していた処理が実際に実行されていることも確認**
- 合否判定結果の公表等においては、追加合格者の決定も含め、**複数の担当者により二重、三重に点検**

<ミスへの対応>

- 外部から入学者選抜におけるミスに係る指摘等があった場合には、**速やかに作題者以外の者も含めて組織的な体制で検証を実施**するなど、適切に対応
- ミスが生じた場合には、受験者に丁寧に対応するとともに、**ミスが生じた原因を分析し、再発防止策を策定**し、**入学者選抜に関するマニュアル等の改善**を行うなど、**ミスの再発防止**に努める

万が一ミスが生じた場合は、受験生等への情報提供を含め必要な対応や大学入試室への第一報を行うとともに、できるだけ速やかに報告書を作成・メールによりご提出ください。